

## 第73回市民ふれあいトーク 【一緒に考えるこのまちの地域力】

日時 平成29年8月31日 18:30~20:00

場所 玉島支所大会議室

### 要約版

#### 《市長》

皆さん、こんばんは。今日は、夕方の忙しい時間帯に市民ふれあいトークにご参加をいただきまして誠にありがとうございます。今回、第73回でございまして、私が市長に就任をさせていただいてから、大体毎月1回ぐらい各地区、公民館とかに伺いまして、また、テーマごとに開催をしているということで、73回になりました。今日は、「一緒に考えるこのまちの地域力」としまして、玉島地区の地域力について皆さんとともにいろいろ考えていければと思っていますのでよろしくお願いいたします。

最初に私から、15分ぐらい最近の状況をお話させていただければと思っています。まず、菅井竜也君が、将棋の王位を取ったということで、今日の山陽新聞の一面に出ておりましたけれど、ご存知のように倉敷市芸文館のところに、大山康晴十五世名人の大山名人記念館がございまして、菅井君自身は岡山市に住んでいるんですけど、子どもころから大山名人記念館に通って力をつけまして、倉敷市がしております全国小学生王将戦の大会で、確か第2回の高学年の部で優勝しまして、将棋の奨励会というところに入りました。それから井上慶太九段の弟子になりまして、ここ最近、強くなっていったんですけど、今回、タイトル戦に挑戦して、あの羽生さんを4対1でやぶられまして、平成生まれの初のタイトル保持者、名人とか、王位とか、王将とかいろいろタイトルがあるんですけど、その中の王位になったということで、倉敷市としましては、岡山市在住ですけど、倉敷市が育てたタイトルホルダーということで、大変喜んでるところでございまして。

そして、当玉島地区におきましての最近の大きな心配事というのはハーバーアイランドのヒアリのことだと思っています。最初、200匹ぐらい見つかりまして、その後、女王アリが見つかって、それから、また、もう1回見つかったわけですけど、玉島ハーバーアイランドは、県の管轄ということで、市の方から県の方に、とにかくそこから出ないようにしてくださいということで、捕獲のためにいろんな粘着テープを付けたりとか、いろいろしてまして、今のところそこから拡大をしているというようなことはないように県の方から聞いております。全国で、ヒアリが発見されているということですので、本当に皆さんも、家の方には絶対来ないとは思いますが、近くに行ったときに、もしもそういうのを見たときには絶対、触らないようにしていただきたいと思っています。ちょっと心配なことで、大きな被害はないと思っていますけれども、安心には越したことがないというふうに思っておりますので、気を付けていきたいと思っています。

そして、今日8月31日は、私は平成16年のときは収入役だったので、玉島にとりまして、非常に、大変なときだったと思います。台風災害の8月30、31日が一番ひどかったときでして、31日は勇崎地区で西山さんがお亡くなりになったという日でもありまして、本当に市にとっては、もちろん9月が防災の日ではありますが、この日は市全体の防災を今一度考え直す日になっているというふうに思っております。

さて、話があちこちいたしますけれど、最近の倉敷市の大きな出来事としては、今年の2月1日が玉島、児島、倉敷の3市合併のちょうど50年という大きな節目の年になったというのが、ひとつでございます。今日皆さんのところに資料を配っておりますので、私の胸

にもバッチがついておりますけれど、日の丸の下にバーコードみたいなのがありまして、その下に日本遺産と書いてあります。これは、私が今から皆さんにお話ししたいことにも大きく繋がっております、このバーコードみたいなところは、何かと言いますと、ジャパン・ヘリテージという英語が書いてありまして、これは文化庁が、日本遺産になったところにだけ使っているいいロゴマークとして許可をしたものです。さて、この中（日本遺産パンフレット）にありますように、この度、今年4月28日に倉敷市の31の文化財を中心とします繊維産業のストーリーが「一輪の綿花から始まる倉敷物語」といたしまして文化庁から日本遺産として認定されました。この中には、玉島町並み保存地区、旧柚木（ゆのき）家の西爽亭等をはじめとします倉敷市内の繊維に関係のある町並みがたくさん載っているところがございます。これは一体何かと申しますと、国が2020年のオリンピック、それから、その前も後もそうですけれど、国内の方、それから世界から来る方に対して、日本遺産として知ってもらわなければならないということも認めてもらったのがこれでございます。倉敷市では、ここ数年準備をしてきて、倉敷市の歴史文化の元々の起こりというのが、今の町並みや産業の発展というのが、なぜこうなってきたのかというのを、この日本遺産として申請をしたいと思って取組みをしてまいりました。その中で、玉島地区におきましては、備中綿の大きな産地であり、そして北前船によって我々のところで作った綿というものが玉島の港から全国各地に出荷をされていく、また、児島は児島で下津井の港から作った綿を出荷していましたし、また、同じように北前船によって北国の方から綿を作る肥料となりますニシン粕とか、イワシの粉などが逆に来まして、そしてこちらからは綿、また児島の方から塩を送って、逆に向こうからはその肥料となるニシン粕、またその塩で作った向こうの方からは塩昆布、塩鮭を全国に出荷をすることができた、という大きな流れがあります。ということで倉敷市は、この倉敷市全体の産業の基盤となるものとして繊維産業、綿、綿花の歴史を取り上げまして、日本遺産で申請をして、国から認められたということがございました。

さて、この日本遺産をどうやってこれから活用していこうかということをお話したいと思っております。例えば、美観地区ではクラボウさんのところがアイビススクエアになっていたり、各蔵が並んでいたりしまして、大きな観光地になっております。児島では、もちろん学生服は今も作っております。それから今は、駅のところからジーンズストリートが非常に盛んになりまして、そこだけで大体37店舗ぐらい、ジーンズ関係とか、それに関する食べ物屋さんとかも出てきてというような状況になっていて、児島は児島で、今、非常に繊維のまちとして有名でございます。

私がこれから非常に期待をしております、かつ、皆さんとともに進めて行きたいと思っているのが、この玉島の綿花、そしてその綿や玉島の港を通じて多くのやり取りがあった中で、栄えて行った町の歴史というものをこの日本遺産という力も借りて、是非、全国にPRをして、日本の方、それから海外の方にも来ていただきたいというふうに思っているところであります。と言いますのが、例えば観光客の方の数をみますと、美観地区では大体年間に350万人来られています。児島の鷲羽山のあたりでは大体110万人来られています。瀬戸大橋あたりを含めて。一方で、玉島の円通寺あたり的人数しかとってないんですけど、大体年間に8万人ぐらいと非常に少ないわけです。これを何とかしていきたい、というふうに思っているのも大きなことですし、また、それは地元の皆さんも同じ気持ちで居ていただいているんじゃないかと思っております。いろいろな面で商店街の

皆さん方、また、おかみさん会や若旦那会の皆さん達、また、様々な推進協議会の皆さん達、地元の皆さんが本当によい魅力を、ここ最近、例えば、備中玉島みなと朝市ももう3年、それから若旦那会の皆さんも取組みを、若者の人達を教えているんな地域の魅力を考えていこうということで活動していただいておりますので、私はこの日本遺産というのを好機にして、玉島で、皆さんと一緒に、もっともっと前に出ていくように頑張りたいなというふうに思っております。そのことについて是非、皆さんの方からも、今日、ご意見をいただきたいなと思っております。一応これはふれあいトークで、双方向なものですので、私ばかりが話すのではなくて、玉島のことについてこう思っているとか、地域の活性化がもっとこうなったらいいな、ということをお話していただきたいなと思っております。さて、日本遺産のことをお話しましたが、もうひとつ、町の全体の整備のことについて、お話をしたいと思います。

私が市長に就任しまして、玉島地区の皆さんから、とにかく2号線の高梁川のところの橋が混むから何とかしてくれないか、ということをお話されておりました。そして水玉ブリッジも混むということをお話されておりました。この間、私が取り組んできた大きな事のひとつが、この橋を拡幅する、それから新しく橋を架けるということでございまして、いくつか完成した物がありますので、ちょっと報告をさせていただきたいと思っております。ひとつには、高梁川の下手のところのクラレさんのところとJFEさんのところの方に、この3月25日に倉敷みなと大橋という橋が架かりました。これは国の橋でございまして、主には玉島ハーバーアイランドとそれから水島のコンビナートを直結しまして、元々水玉ブリッジの方に、それから霞橋の方にコンビナートの車と生活の車が一緒になっておりましたのが、それを分けて、安全に、かつ、コンビナートの効率も良くしていきたいということで、国の方に要望活動を行いまして、やっとこの3月に竣工いたしました。一応、車がメインなんですけれども、自転車歩行者道も付けてもらいまして、通勤時間が大体15分くらい短くなったというふうに言ってくれる方が多いかなと思っております。それに伴いまして、水玉ブリッジの方も混むのが減ったということをお話しておりますので、両方ともうまく行って良かったなというふうに思っております。それから、もうひとつ、今、進めておられますのが高梁川大橋の4車線化でございまして、2年ほど前に国から事業化を認めてもらいまして、ちょっと大きな事ですので、あと2年ほど期間がかかりまして、一応平成31年度中には4車線化になりますので、船穂のところの混み方が随分減ってくるんじゃないかというふうに思っております。そのあたりが大きくまちづくり関係で取組みをしてきたところかなというふうに思っております。

それともうひとつ、これからしばらく皆様にご不便をお掛けするんですけど、国の方に、地方創生の補助金をお願いしてございまして、それでちょうど受かったことなどもありまして、良寛荘の改修をさせていただくことになりました。日本の方もそうですし、海外の方も増えてきていらっしゃる方も徐々に増えてきているというふうに伺っております。この方たちにも、もちろん、町の中でお茶の体験などしていただきたいわけですけど、円通寺の、あそこの良寛荘でも、そういう体験をしていただけないものなどを作りたいということですので、大変申し訳ないんですが、11月の中旬ぐらいから春ぐらいまで、一旦閉館になるようになっておりますので、ご不便をお掛けいたしますけれども、よろしくお話ししたいと思います。

私ばかりが話しては時間が終わってしまいますので、今、私がお話を申し上げたこ

とに関係しても関係しなくてもどちらでも大丈夫でございます。玉島のこれからのことについて、また、今、自分がこういうところに力を入れているのもっとPRしてもらいたいとか、そういうことがありましたら、ぜひ教えていただきたいと思いますので、よろしくお願いたします。

#### 《参加者 A さん》

この6月から玉島商店街振興会の会長になりましたAといいます。先ほど市長さんが言われておりました、朝市、昭和のまちのまちづくりとかどれも始めて約3年ほどになりまして、去年から倉敷市で初めての「まちゼミ」も開催しておりました、商店街の方も皆さん元気を出してやっていこうよという話になって、この11月に第3回目のまちゼミを行う事になりまして、で、この度より水島の商店街さんも一緒になってやっていただけるということで、(市長：一緒にやられるんですか？どこででしょうか…?)一緒に、あの、商店街同士は別々なんですけども、期間が同じという事で一緒にPRをしていこうよということで、で、まあその朝市のことにしても、昭和のまちづくりのことにしてもそうですし、まちゼミのこともそうなんですけど、地域おこし協力隊のFくんが来てくださいます、何事にも一生懸命に頑張ってもらって、協力していただいて非常に感謝しています。ありがとうございます。できれば是非、来年というかFくんの後にも地域おこし協力隊の方に来ていただいて、玉島を元気にしていただければと思いますので、よろしくお願いたします。お願するばかりなんですけれども、これからまた玉島の商店街と、港周辺、駅の方ですとか、商店街も頑張っていきますんで、これからも変わらずご支援をよろしくお願いたします。

もう1件。ちょっとあれなんですけれども、今こうやってるイベントに対して、支所の産業課の方がお手伝いいただいているんですが、産業課の方が「産業観光のことを僕たちは一生懸命やりたいんだけど、今、農林とかそっちの方のことも一緒にやっているんで、中々お手伝いできないんです。」ということなんで、できましたら人員の配置ですとか増強ですとか、そういうことをやっていただけたらいいのかなあと、なんとなく思っていますんでよろしくお願いたします。

#### 《市長》

ありがとうございました。まちゼミは、高校生とか大学生とか、学生さんに魅力を伝えるとかあるんですか。

#### 《参加者 A さん》

ではないです。各商店1軒1軒の店主が先生となって、お客さんにお店に来ていただいて、そのお店の魅力を発信したり、リピーターを増やしたりというような…。学生さんはほとんどいないですね。今学生さんが来られているのは、備中玉島みなと朝市の方に、玉島商業さん、玉島高校さん、それから芸科大の学生さんが一緒になってお手伝いいただきながら、朝市をやっております。玉商の生徒さんなんか毎回15人くらい、玉高の生徒さんも10人くらい来ていただいて、授業の一環として来ていただいておられますので、生徒さんも非常に楽しんでやっていただいております。いろいろとよろしくお願いたします。

## 《市長》

分かりました。ありがとうございました。

## 《参加者 B さん》

こんばんは、B です。玉島の事ではなくて、倉敷全体のことでお話をさせていただきたいんですけど。私は平成 27 年に倉敷市の助成で防災士の資格を取ることができました。で、その防災士について、倉敷市の位置づけとか役割を聞きたいんです。倉敷市の助成でたくさんの防災士が生まれているかと思えますけど、今防災士の活動は個々に任されていて、倉敷市との連携はほぼないような状態です。また、防災士の間で任意的に有志で、倉敷防災士会というのが作られているんですけど、倉敷市との連携もない関係で、入会する人が非常に少ないんです。また、活動資金についても、会員の中で会費を集めてねん出しているような状態で、限られた活動しかできない状態になっています。倉敷でも防災に対して地域力を上げていく必要があるかと思えますが、これから市として防災士をどう活かしていくかということも考えていく必要があるのではないかと思います。それからまた、災害が起こった時に防災士をどう使っていくか、役割についてもマニュアル等もまだないと思います。倉敷市として、そこをどう考えられているか教えてください。

## 《市長》

どうもありがとうございました。防災士の活用といいますか、活かし方についてご質問をいただきました。倉敷市では、確か 5 年か 6 年くらい前から倉敷市が研修費用を補助しまして、ただ防災士の資格を取るテストの分につきましては、皆さんに出していただくことになっているんですけど、毎年だいたい 50 人くらいの方が防災士として誕生して、活動していただいております。南海トラフの地震が 30 年以内に起こる確率もだんだん大きくなってきておりまして、今 70% 近くまでになっております。倉敷市内ではだいたい震度 6 ぐらいになると言われています。これは、もちろん玉島地区だけではなく、倉敷市内各地区で備えをしていかないといけないということだと思います。さて、ご質問の防災士の役割についてですが、市がまず一義的にこの防災士の講座に期待しておりますのは、市内の各地区におきまして、自主防災組織が無い所がまだまだあるわけです。自主防災組織というのは、広い単位の町内だったり自治会だったりいろいろあるわけですけど、その無い所について、是非防災士の資格を取ってくださった方が地域の中で自主防災組織を立ち上げていこう、そして立ち上げたら地域の中で、避難場所の確認をみんなでしたりとか、そういうリーダーになって活躍をしていただきたいというのが元々の考えです。地域によって防災活動の活発なところとそうでないところがありますので、市としてはそういう面に期待しているところがありますのと、それから防災士の連携が少ないように感じるというふうに言っていたと思います。これは、市の方からは、例えば地区ごとの総合防災訓練等がありましたら、防災士の方にも声をお掛けして、参加していただきませんかとお願ひしたり、それから防災士のネットワークがあると伺っているのですが、そこがあまり入っている方が少ないということですね…。いろいろと課題もあるかもしれないので、かつそのネットワークと市との連携が少ないということですかね。

## 《参加者さん》

そこに助成といいますか、何か大きいイベントをしようと思ってもやっぱりお金がない。地域地域だったら活動できますけど、大きい何かをしようとする時にはできない。

#### 《市長》

なるほどですね。先ほど申し上げましたように、一義的には市の思いとしては地域での活動のリーダーになってもらいたいというのがまずありますので、その地域の活動の中では、町内会とかコミュニティへの防災の助成の仕組みがありますので、そういったものを使っていただきたいなというのもあるんですが、それが、だんだん広がってくる中で、連携をして防災士の皆さんだけで何かをやろうかなというのもできるかもしれないんですが。私の気持ちとしましては、まず、地域ごとのそういった防災体制のない所の強化をしたいと思っております。ただ防災士の皆さんが市と一緒に活動したいという思いを持っていただくのも大変ありがたいことだと思っておりますので、うちの防災担当課とも是非連携をして、こういうアイデアがあるんだというのをまた教えてもらったらと思います。

#### 《参加者Bさん》

ちなみに、例えば防災士（会）に入る人が少ないので、市報（広報紙）とかそういったものに出す時にも、お金を取るようなことになっているんですね。あれに、入会の案内を出そうと思っても、やっぱり掲載費用が…。

#### 《市長》

（広報紙に掲載するのに）商業的な分はお金をいただいているんですが、こういう、防災士とかのネットワークがあるんで入りませんかというのは、防災の方にも言っていただければ、お金は要らないと思いますが、また後で事情をお聞きして。とにかく、防災士の方の活動には期待をしておりますので、よろしくお願いします。

#### 《参加者Cさん》

玉島みなと若旦那会に入っているCといいます。同じように朝市の方を頑張ったり、まちづくりの方を頑張ったりしております。先ほど市長からお話があった日本遺産というブランドを使って、観光客を、美観地区の350万人、玉島が8万人というのを少し増やしたいという意見をいただいたんですけども、僕も本当に共感できて、玉島は昭和のまちということで、私たちは頑張ってやっているんですけども、仲買町の方に味噌醤油屋さんとか、酒蔵さんとか紙屋さんとかが狭い範囲に固まっています、それぞれの店主さんが頑張ってお客さんを招き入れてやっているんですが、ちょっとこれ、又聞きなんですけれど、この度パンフレットを作って一緒になって仲買町に観光客を呼び込もうとやっています。それで美観地区の観光客350万人いる中の1割の方を呼びたいなと言っていますし、そういったことが市の協力のもとにできたらいいなあと思っています。それで玉島の商店街の方にはその35万人のうちの、1割でも来ていただいたら、賑わいが少しずつでも取り戻せるかなあと思いますので、よろしくお願いします。

それと、イベントを今頑張っています、玉島湊酒まつりというのをやります。今日パンフレットをお手元にお配りしましたが、9月2日・3日でやるんですけど、お酒を使って皆さんに喜んでもらって、まちを活性化していこうということで、多分倉敷で酒を使

ったテーマのイベントは初めてだと思うんですが。岡山さんとかは6回目7回目をやっています、東広島の西条なんかは20数回と、すごい有名なのをやっています、玉島とそんなに人口が変わらないのに、25万人ほどが2日間で来るそうなんです。そこまで中々すぐにはいかないんですが、第1回目ということで頑張っていますのでお時間がありましたら、顔をのぞけてください。

#### 《市長》

新聞を読みながら前売り券買おうかなと思っていたんですが、これは若旦那会も一緒にやられているんですか？

#### 《参加者Cさん》

若旦那会と一緒にやってないんですけど、実行委員会を作って、まちおこしをやりたいというメンバーで頑張っています。

#### 《市長》

わかりました。応援していますし、行きます。(笑) ありがとうございます。新聞で酒まつりの記事が出ましたよね。本当にすごいことだと思ひまして、西条みたいになっていけばいいなと思ひました。その中で、今回私が日本遺産のことに元々期待をして、うちの職員と考えていく中で、一番のテーマだったのが、とにかく美観地区の観光客の方を、以前よりは少なくなつて最近また増えていますけど、また児島は児島で繊維の関係で注目をされている、それで、市内の50周年の時に、玉島と倉敷と児島を貫く、こっちにも行ったら、こっちにも行ってみたいくなるような共通のテーマというものを、この日本遺産の歴史を考える中で出てきたのが、繊維の歴史だったんです。繊維産業があったからこそ美観地区に蔵が建ち、それを商業として大きく栄えさせたのが、この玉島の町並み保存地区ということで、それは綿花を扱っていた方だけではなく、醤油屋さん、酒屋さんとか、それからお茶の文化もその中で出て来ていますから。そのあたりを全部一緒になって発信できるのが、日本遺産の大きなところかなと思っています。ですので、日本遺産として大きく全部を一緒に発信をしようと思っていますし、玉島に注目をしてもらうには玉島にフォーカスしたものをを出していこうと、観光PRを頑張っていきたいと思っていますところ。早速酒まつりとか、朝市とかそういう活動を一緒にしていきたいと思っています。

#### 《参加者Cさん》

朝市の方も、去年までは200人とか300人という人数だったんですが、市の方の協力もいただきながらちょっとずつレベルを上げていって、先月で1200人とか、この前は1500人とか上がってきていますので、朝市にも足を向けてください。

#### 《市長》

はい、わかりました。(笑) 今のまちづくりの関係で、お茶のことです。玉島はお茶の文化がすごいと思っていますし、それをもっと出していきたいなと思ひて、うちのまちづくり推進課とかも皆さんといろいろ相談して頑張っているところなんですけど。例えば池田遙邨先生のご親族ですね、茶室の専門家でいらっしゃって、400くらいあった茶室

のうちの1割くらい残っているというお話なんで、例えばそういう残っているお茶室をどういう形でか、皆さん観光客の方も見学したり体験したりできる機会ができないのかなど。

それから、児島もそうだったんですが、今のジーンズストリート、味野商店街が駅前にあります、そこがシャッター街に近いような形にだんだんできてきたところを、ジーンズという志を持った皆さんたちが、最初本当に何店舗かで始められたんですが、そこからすごい成功例というのを皆さんが見てきて、じゃあ自分のところも出店しようかということで、もともとは「空き店舗になっているけど人に貸すのはどうかなあ」というような感じだったんですが、だんだん皆さんが理解を示してくださって貸してくださるところが増えてきて今の30何店舗くらいになってきたというところだというふうに聞いています。玉島においても、これからだんだん人が増えていく中で、私は例えばいろんな特産品とかを扱いたいなという時に、もちろん今いらっしゃる商店の皆さんが頑張ってくださいのが一番なわけですけど、プラスでまた新しい特産品と一緒に扱ったりとかいう方たちが出てきて、また貸してくださるところがあったらどうかなあと思ったりしています。

#### 《参加者Dさん》

玉島テレビ放送のDです。それからNPO法人備中玉島ファーレ・アッシュエーメ代表理事のDです。それから最近まちづくり推進課さんのご支援をいただいて玉島湊まちづくり推進協議会を立ち上げさせていただきまして、まさに町並み保存地区それから羽黒神社からつながる商店街の活性化、再開発というのを掲げまして活動開始したところです。いろいろ始めてみますと、情報が入ってくると難しい面がいっぱいある。さあどこからやるかなというのもあるんですが、ちょうど今年度倉敷市さんの方で空き家対策の計画も制定されるという形もあるんですが、空き家になってから、傷んだものを直して使っていくとか、国の方でも持ち主の分からない建物を行政代執行で潰すとか、できるようになるとは聞いているんですが、その前に利活用をしていく上での制度面の見直しとか、そういうのを、不動産としても地元の資本ばかりでやろうとしてもなかなか難しいなあというところもちょっと考えてまして、外部資本を入れていくにしても、こういうことをやろうとしてるんだとか、それについて今こういう課題があるんだけど、そこをどうやって突破しようとしているんだとか、新たに事業を始めるに当たっても、これから観光を伸ばしていこうというのも一つの軸ではあると思うんですが、それまでの立ち上げのところで、観光だけで食っていくのはなかなか事業化が難しいというのもある。

例えば今、ランチ需要をどうやって取り込んで収益の柱にしようかと考えている時に、ちょっと調べてみても、じゃあ玉島のある範囲の中に、昼間人口はどのくらいいるのかとか、事業所にはどれくらい職員さんがいらっしゃるのかとか、そういうベースとなるデータがない状態です。倉敷市全体で昼間人口がどのくらいいるとか、美観地区周りでのくらい人が動いているのかとかはあるんですが、その粒度の細かいデータがあると、これくらいのマーケットがあったらちょっと出店してみようかなあというところも、それは地元の人にしても外から入ってくる人にしても、一つの目安になるんじゃないかなあというところがあって、調査したいと思います。一件一件聞いて回れば、この事業所には何人いて、お昼はみんな外に食べに行っている、もしくは弁当を持ってきている、実は社食があるんだ…。それによってもちょっと市場の見方、ボリュームが変わってくるものがあるんで、そのあたり。



まあデータの話は公開できるものとできないものがあると思うのですが、一方で、調査しようとしたときに、ご支援いただいたりすると、さらにデータを抱え込むのではなくてオープンにしていくと、「外からの人がいないと言っていたけど結構いるんだなあ」ということが見えてきたりするんじゃないか、と期待をしている部分があります。データの活用、もっと粒度の細かいところでできないものかなあというのと、空き家対策というのもありますけど、今実際そういうレストラン、というか飲食店を開業しようとしている時に、建築基準法をどうやって満たすかということに、今悩んでいるところでして、そういうところも先行している他の都市、特に京都市が一番なんでしょうけど、そういうまちづくり条例みたいな形で、こういうふうにすると突破できるよみたいな事例が出てくると、まとめていけると、もっと加速するのかなあということがございますので。つまり活性化していく上で、地元のみでなく外の力も使おうとしたときの情報公開をご検討いただければと思います。

### 《市長》

ありがとうございました。人の流れのことですね。データとか、市の方で最近取った3年くらい前のあるんですが、それは倉敷市内の各地区に、どこにどれだけ人が行っているか、というので、玉島の中で何時にどこに人が密集しているかというのまでは、そういう取り方をしていないというか、断面でデータが出てくるというのはもらっていないんですが、市の既存でもらっているもので使えるのがあったら、また公表できるような形にして、積極的に公表していきたいと思っています。それが基で何か仕事生まれれば良いと思うし。それから何年かに1回、データとかを取り直したりしようと思っております。確か平成29年度の予算でそれを取るということになっていて、何かその中でまた使えるようなものがあれば、積極的に公表したいと思っています。

それから建築基準法とか、町屋、古民家、多分食糧組合さんとか大変意義のある活動をしていただいていることに心より敬意を表しますとともに、建築基準法関係のことは、市の方も一緒に考えていきたいと思っておりますので、もちろんそれが積極的に活用していただけるようなもので、活性化の起爆剤となっていきますことを期待しております。よろしくお願いいたします。

それからさっき、資金の面ということが言われておりましたが、地元としましては玉島信用金庫さんをはじめとして、玉島のことだけでなく、市全般のことに対して、大変ご尽力賜っておりますので、いろんな地域型の経済循環という面で、玉島信用金庫さんは非常に積極的に新しいところにご支援をしてくださる考えを持っておられるので今後とも是非引き続きこちらからの要望をお願いしたいと思っております。よろしくお願いいたします。

### 《参加者Eさん》

昨日の山陽新聞に、日本遺産、北前船、寄港地物語というのを市長さんが発表して、今年追加で申請されたというのがありまして、すごく喜んでおります。それについては寄港地を巡るような観光なんかがあった時に、もし仲買町、新町、矢出の辺に町並み保存として、今もう無くなったものは仕方がないけど、今あるものを上手に手直ししたりするようにみんなで頑張って、電信柱を地下に埋設したらいいんじゃないかと主人が言ってます。そうすると昔のまちの雰囲気が出るし、それから新町は、(信用金庫の方が)おられるからちよ

っと言うのも変なんだけど、信用金庫さんがすごい大正の初めの建物で、うちはその前に住んでいるから毎日見慣れて、あれが無くなるということはとてもなんか悲しく思って、新しく大きな信用（金庫）さんが出来たら、その時には地震とか津波とかの時に、羽黒さんや円通寺さんに私たち年寄りには逃げられないから、信用金庫さんにそういうところもつくってほしいと今お願いしてるんですけど。外観が、とても大正の初めの日本でも少ししかない建物で、あれを何とか残してほしいと思ってます。北前船が何百年も前からあって玉島がとても盛んになって、それでお茶の文化も盛んになったのではないかと思います。とりとめもありませんがよろしくお願ひします。

### 〈市長〉

ありがとうございます。北前船の話を最初にしてくださいました。北前船がどういうことかと言いますと、倉敷市は実は今年の4月28日に、繊維のまちということで日本遺産になったんですけど、それと同じときにこの北前船、北海道の江差町から青森、山形県の酒田市、それから長岡とか敦賀とか、ぐるっと日本海側のところの、北海道、東北、北信越のあたりまでのところの日本海側の寄港地さんが北前船で町おこしをしたいということで、これを一緒になって申請しました。倉敷市は倉敷市で地域型っていうんです。市の中でストーリーが完結して、組み立てになって大きく発信できるものがあるということで、倉敷市は倉敷市単独で出したんですが、この北前船の皆さんは、北前船というつながりでみんなで出そうというシリアル型で出されてたんです。うちはそのことは途中までは知らなくて、それがあればうちもからめて一緒に入ればよかったかなと思ったんですが。それで4月28日に文化庁に行ってみて、両方とも受かったということになって、それから7月14、15日に、新聞とかでご覧になった方もいらっしゃると思うんですが、北前船寄港地フォーラムというのが岡山市と倉敷市と玉野と瀬戸内で一緒に協力してあったんですが、その時にこの北国から来られた皆さんたちが、「倉敷市も北前船に入ってくれないかなあ」と、言われたんです。うちはうちで、綿ができるには北国のニシン粕が必ず必要でそれがすごい肥料になってできたということなんで、興味は持っていたところで、向こうは向こうで酒田の市長さんが取りまとめをされていて、「倉敷市さんとは単独で日本遺産取られて、有名な観光地だから一緒にされるつもりはないですかねえ」と言われたんです。それで私は「うちの玉島の港も下津井の港も北前船の大きな寄港地だったので、追加認定の機会があるんだったら是非検討したいと思ってるんですよ」と話をしましたら、とんとん拍子に話が進んで、「じゃあ一緒に追加申請に」というお話がきましたので昨日の新聞で発表して、（北前船日本遺産推進）協議会に入ろうということになりました。今の自治体の数で大体40くらいの自治体が北前船の寄港地になっているということですので、その皆さんと連携してこのまさに江戸から明治にかけての日本の経済の大動脈だったと思いますので、それを観光の一つのPRの材料として、それから自治体同士の連携というのもできると思いますので、そういうのもやっていきたいなと思っております。

それに当たっては、確かに今、電柱の地中化とか、いいのを言ってくださったので、今、国会の方でも電柱の地中化というのは日本の町並みの原風景を取り戻すのに非常に重要なことだというふうに決議とかもされて、進む手法とかがだんだんできていますので。今のところ美観地区の本町通りとかが対象でやってるのですが、今後玉島でもそれができればいいなと思っています。なにしろ住民の皆さんの協力がないと合意がないとできないとい

うことがありますので、まちづくりの進捗と併せて相談させていただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

### 《参加者 F さん》

倉敷市の地域おこし協力隊の F と申します。なかなかこういった形でお話しする機会がなくて多分初めてだと思うんですけども。

僕は去年の 9 月に倉敷の方に引っ越して来まして、商店街の皆さんと今備中玉島みなと朝市と一緒にさせていただいているんですけど、すごくよくしてくださって、来場者数がすごい増えているっていうところで。ただ、近所の方とかも来てくださるんですけど、たまたま通ったらやってたという感じで認知が全然で。実は地元の方でもよく知らないっていう方が多いので、PR 力というか倉敷市の力をお借りできるともっと拡散していくんじゃないかなと思いますので、認知のためのお力を是非貸していただければ。ということと、あと外国のお客様を玉島に呼びたい。いろんな記事とかにもなってるんですけど、やはり外国人の方が来てそれを発信したいというような方が、携帯 SNS とかで。倉敷と児島にはもう Wi-Fi が飛んでいるのに玉島だけないっていう状況もあると思いますのでそういった整備ですとか。あと僕は神奈川出身でこっちの方に来て改めて思ったのは、飲食店が少ないのかなど。僕も旅行が結構好きで、行く時に何をしようかなと思った時に、やっぱりその地のものが食べたいとかいうことがまず入口だったりするんで。例えばこれから社会に出て行く若い人たちが地元で起業したくなるような制度とか、起業をしやすくなるような整備だったりとか。空き家の問題、空き店舗の問題とか、そういったことにもっと踏み込みやすくなるようなシステムがあるといいのかなというのが、ちょっと素人考えで申し訳ないですけども。あとは宣伝みたいになってしまいうんですけど、お手元にありますみなと朝市のチラシ、この 9 月から朝ごはんを毎月第 2 日曜日はみなと朝市で食べませんかということを皆さんにご提案していこうと思ってまして。主婦の方は朝ごはんの準備を休んで、ご家族の方とかお孫さんとかと一緒にみなと朝市でごはんを食べていただけたらなあということ毎月やっていこうと思ってますので、是非いらしていただければと思います。伊東市長、常々お待ちしておりますので、(市長：わかりました。ありがとうございます)是非朝ごはんを商店街の皆さんと一緒に食べていただけたら嬉しいなと思っております。よろしくお願いいたします。

### 《市長》

地域おこし協力隊として大変頑張ってくださいありがとうございます。Wi-Fi のことを言ってくださったんですけど、実は倉敷市の観光地の Wi-Fi 化を進めるのを 2 年前から徐々にやっています、そのきっかけは何かと言うと、去年 5 月のサミットの教育大臣会合を誘致して来まして、海外の大臣とか代表団が来るにあたって、Wi-Fi が使えなかったら困るということで急遽去年の 5 月に向けてまずは美観地区を整備したんです。その後児島に来る人が今増えているので、児島の Wi-Fi 化をジーンズストリートとか鷺羽山のあたりとかをやったのが去年の冬でした。実はちょうど今、玉島の町並み保存地区と良寛荘、円通寺のあたりの Wi-Fi 化の取り組みをされていて、今年の冬には一応できる予定になっておりますので、そこで進んで行くようにと思っています。一方で、今食べる場所が少ないということもあるかと思うんですけど、海外の方が来られる時に一番困るのが、メニ

ューが英語表記とかがないので困るということを結構言われるみたいなんです。市の方でも一応メニューの英語化の補助金もあるんで、そういうのとかも是非地元の商品会社さんとか使っていただいて、英語でメニューとか内容とかが分かるようにとか、それから今海外の方が来た時に、商店の方がどういうふうな対応をすればいいのかっていう、簡単な分なのですけど、それもサミットの時にとりあえず美観地区の人たちだけ3回ぐらいやっただけなんです。そういうのを児島とか玉島とか市内のいろんなところでやって、これから増えていく海外の方に向けての準備をしたいなと思っていますので、そういうところでも是非地域おこし協力隊さんの方からも、また詳しい仕組みとかお知らせしますので、店主の皆さんとか、それぞれ取組みをされている皆さんにも広めていただけたらありがたいと思っています。（Fさん：ありがとうございます）朝ごはんをみなと朝市で食べます。

### 《参加者Gさん》

玉島の一番北にあります穂井田地区から参りましたGと申します。今まで聞かせていただいていた大きな問題が多いんですが、小さな問題もよろしいでしょうか。（市長：もちろん大丈夫でございます！）穂井田地区という小さな地区で、お医者さんもないしお店もないしというところなんですけれど、高速に乗るにも新幹線に乗るにも10分圏内で行けるので、車があればすごく住みよいところだと思うんです。緑もいっぱいですし。ただ、車に乗れなくなった場合、みんなの口から出るのが、「陸の孤島になってしまう」ということで、今小学校も53名というずいぶん少ない学区になっています。今のところは複式になっていないんですけれど、やがて複式になるのではないかとみんな心配をしています。少人数なんですけれど同じように平等に、複式ではない1学年ずつの勉強をさせてやりたいと思っています。

それで今、昨年の4月から陶・服部まちづくり協議会というものを立ち上げました。まず人を増やす、子どもを増やすことを考えようということでみんなで頑張っています。ただ、先ほどからいろんなところでお声が出てるんですけど、空き家がたくさんあります。空き家になるのにもやはりお店がない、お医者さんがいないということも一つの原因だろうと思っています。それとまた、農振になっておりまして人が入って来れません。ですので、その地域にいかにか人を増やそうかということで、それには空き家なら人が入れるということをお聞きして、空き家を調べて空き家に人を呼ぼうということで地域みんなで運動をしています。先ほどからありましたように、まちづくり協議会の方で綿の栽培もさせていただいて、昨日綿ができていました。（市長：ありがとうございます。コットンプロジェクトの分ですね。どのぐらいできているんでしょうか）5月の何日かに、小学校の児童さん、それから地域の人に声をかけてみんなで植えました。それからずっとみんなで交替で出て草取りもやりまして、昨日見たらこれぐらいもうはじけて、綿ができていました。今度は収穫に向けて頑張らないといけないなという状況です。それから今まちづくりのためにインターンシップっていうんですかね、今年も作陽の学生さん倉敷芸科大の学生さんに来ていただいて、いかに穂井田を元気にさせるかということで皆さんに考えていただきたんですけど、ただ本当に一番のみんなの願いは子どもを増やそう（なんですけど）、これからは担っていく子どもたちが帰って来れないんです。家が建てられないんです。家が建てられるようにどうにかなることと、そういう現状を是非市長さんに見に来ていただきたいと思って。昨日まちづくり協議会がありまして、今日こちらに参加させていただ

くという話をしましたら、皆さん是非市長さんに一度見に来ていただきたいということを言っておりましたので、よろしくをお願いします。

### 《市長》

ありがとうございます。今、空き家のこととか言われたんですけど、倉敷市内の他の地区でも人口が減ってきていて、それで今東京とか神奈川とか関東圏から移住をしたいという人も徐々に増えてきているんです。その中で、市の方でも移住定住の倉敷市内の地区の中でPRをして関東とかに向けて、引っ越して来ませんかというPRをするような、なんていいですか重点地区じゃないんですけど、そういう地区を募集をしてやっていこうかなというふうに思っています、例えば農振のこと言われたんですけどすぐには制度がっていうのは難しいかと思うんですけど、今言われたように空き家のところを貸してください、それからもし購入されるのであれば例えば制度として市が補助を今後していくとか、例えば。まだないんですけど、そういうようなことを作っていったらいいかなとちょっと考えたりしているところでして。そうすれば今の家って使っていないですっていう方がいらっしやったらPRをして、若い世代の人が移って来てくださったらまた地区も盛り上がっていくんじゃないかということも思っています。他の地区でもそういう活動が始まっているところもありますので、また陶・服部まちづくり協議会に見学に行きました時に活動を教えていただければと思っています。

### 《参加者Hさん》

Hと言います。清心町に古くからあった「玉屋」さんという洋品屋さんを改造してちょうど空き家の再生の話が出たのでちょっとお話をさせていただくんですが。自宅兼場所、家を開くような格好で構えて活動しています。入ったばかりなんですけど東京藝大の小沢研というのが合宿して、そこで作品制作とか、生活しながらやってくれたんですけど、実際にそういう古い家を買って、買った後にやはりそれを改築するっていう必要が出て来るわけなんですけど、水回りにすごくお金がかかってしまう。具体的にはお風呂とか、そこらへんがかかってしまいます。特にこちらの方は江戸期の建物がたくさん残ってます。それと商業施設を転用しようという場合にはそういうところが非常に弱い。で、それを解決するのに実はお風呂屋さんを最初に、みなと湯とか閉まっていますけれども、再生することができれば、移住をして来ました、例えばアパートに住みながら古い家を改修しつつ、という方々の負担がすごく軽くなります。お風呂屋さんの再生ができると、お風呂を作るための何百万円かのお金って要らなくなります。それと古い建物を改修する時に、そもそも内風呂がないところに無理矢理作るっていう、建物の、要するに由来をなくしてしまう、無理矢理後付をする必要もなくなる。そういう点でもし重点地区、例えば玉島の方で重点地区で移住促進、特に古い民家を再生しようというのであれば、最初にキーになるお風呂屋さんの再生っていうのを考えていただいてもいいんじゃないかと思います。

それと今の日本遺産の話で、産業のポジションっていうのを、販売型の、ものを作ります、それを売っていきます、というのではなくって、観光型の、価値があるところに人が移動してくるタイプの産業タイプに倉敷市は切り替えていこうと考えていらっしゃるのでしょうか。

## 《市長》

そうですね…。引き続き地元で作った特産品をどんどん外に売りたいとは思っております。ただ、一方でこっちに人が来てもらいたいというふうに非常に思っていますので、人がこっちに来てくれるような取組みに力を入れたいということも非常に強く思っています。

## 《参加者Hさん》

そうしてみると広義の文化って結局時間軸がすごく必要ですね。玉島の場合でしたら、300年間の積み重ねでお茶とか綿花の文化っていうのができているわけなんですけれども、この文化をどうやって発信していきましょうか、どうやって維持していきましょうか。放っとけば建物とかがどんどん更地になります。多分去年あたりでも、僕が住んでいる中央町の近辺でも2か所建物がなくなって更地になっています。なくなると300年分の時間がゼロに戻りますから、ほかの地域との差別化ができなくなります。だからいかに時間を残すかっていう視点が必要なのかと思います。その点でランドマークになるような地域の建築物をどういうふうに保護していくのか。それを個人に全ておんぶにだっこでやっていくのか、それともまた別の方法を考えていくのか。そこは市の方としても例えば持ち主さん、ないしはそれを使いたいっていうような人と一緒に考えるテーブルを作る必要があるんじゃないかと思います。当然、じゃあそれをどうやって発信していこうかって話になるんですけども、一番のサポーターっていうのは地域にいる子どもたちだと思います。子どもたちがいかに玉島なら玉島っていう地域のシビックプライドを持って、例えば進学とか就職で他の地域に行ってもらおうか。そこの部分を考えて、例えば教育の場であるとか商店街振興というものの政策にひっかけて若年層のシビックプライドの情操をいかにしていくかっていうことを考えていく必要があるんじゃないかと思います。それを人間が移動するっていうことになりますけど情報の移動だけで考えると beyond 2020 の対応、そこらへんを考えていく必要があるんじゃないかと思います。

## 《市長》

ありがとうございます。beyond 2020, オリンピックの後ですね。お風呂屋さんの再生のアイデア、初めて聞いたんですが非常に斬新な考えだなと思いました。確かに古民家を再生する時に水回りにお金がかかるということはよく伺います。お風呂屋さんが再生できるのかどうかはちょっとよくわかりませんが、とにかく移住定住をしてくれる方のバリアとなるものが低くなるような方向の政策がこれから要るかなというふうに今も皆さんのお話を伺って思っております。それから最後のところで子どもたちの地元を誇りに思う気持ちっていうのを言っていただいて、本当にすごく大事なことだと思っております。倉敷市は今全体では人口は増えていて、大体48万5千人ぐらいで、玉島は大体ここ10年間ぐらい人口的には平行ぐらいになっております。そういった中で学校（進学）で地域から出て行かれる方もいらっしゃるわけですけど、そこでまたいろいろなことを経験してまた地元に戻って来てもらいたいという思いが非常にあるので、そのためには住みやすい、それからいろんな仕事があるとか、自分が仕事を興しやすいような環境になるということが大事ななと思っていますので。そういうふうな今言ってくださったシビックプライドですか、地元を誇りに思ってそれを発信するっていう教育を学校の方でも小さい頃から、まあ今郷土の偉人を勉強するっていう授業なんかもやっているんですけど、そういうものな

んかももっと大切にしていきたいというふうに思いました。ありがとうございました。

#### 《参加者 I さん》

玉島の一番西の南，南浦から来ました I と言います。先ほどの人は一番北だったんですけど一番南で，何もなくて，あるのは自然だけ。とても自然の美しいところなので，先ほど人を呼び寄せるといふことに関わりで，ああいうところサイクリングするととってもいいと思うんです。けどとても道が悪い。車が 1 台やっとなれるくらいなので，そのあたりを少し整備してもらおうと，子どもたちの通学にもとってもよくなると思ったりしております。市長さんも何回も南浦には来てくださって，とってもいいとこだと思うんですけど，道がちょっと悪くてなかなか楽に住めない。狭くて危なくて。年をとって車をなくした人が自転車に乗りたいんですけど，その道は自転車に乗れないんです。あおられて，危なくて，狭いので，電気自転車にも乗れなくて，だからもう足がなくなってしまうという過疎地でもあるので，ちょっと自転車道みたいなところが確保できると，少しは住みやすくなるかなあと思ったりしておりますので，お願いします。また来てください。

#### 《市長》

分かりました。また行きます。

#### 《参加者 J さん》

商店街の方から参りました J と申します。今日先ほどから聞いておったんですが，玉島はいいとこだなっていうことで，古民家がたくさんありますし，蔵屋敷もありますし，大勢私どもから見ますと，どこがいいのかなと思うことすら分からないような環境に育っておりますので，外部の人が来られまして，玉島は素晴らしいと言う方がぼろぼろ増えてきておるのではなかろうかなと思うんですが，その中にありまして，特に玉島の西爽亭を中心に，道の標識もさることながら，道がよく荒れてますよね。それと同時に，自転車は左側を通りますよね。路側帯というんですか，白線の中は通ってはいけません。白線とだぶって点線があるところはよろしいとか，いろいろ交通ルールはあるんですが，私も地域安全推進員の一人として青パトにも乗っておるんですが，高校生・中学生にどのように指導していいか分かりませんね。（市長：分かりにくい？）私自身が分かっておりませんので，道路標識等，ここは歩行者も通っていいんだ，自転車もいいですよという標識があまりにも少ない。私らが小さいときは道が広がったのが，民地・官地の境界が，民地の方がここまでがうちの敷地だと言われたら，市の方は地元の人でないんで，「そうですか」と言って，だんだん道の中へ家が建っていくような経緯があります。（市長：そうですか？）交流センターの通りなんかもそうですが，きれいに民地と官地の，側溝ですかね，これを 1 日も早くきちっとしたものにして，路側帯を書いて，看板を書いて，きれいな町だなというふうな感じを与えるような町にして欲しいなって，今日はお願いに来ました。以上です。

#### 《市長》

ありがとうございました。一朝一夕にはなかなかできないような大きな話だとは思いますが，道路標識は交通の方にも言って，もう 1 回見て，分かりにくいところがあったらどうすればいいのか，標識なんか例えば学校とかに教育をしてもらおうとかあるかもしれませ

んし、再点検してみたいというふうに思っております。官地と民地の境界のところは、双方の残っているものを突き合わせてから決めるところだと思いますので、しっかりやるようにしたいと思います。

#### 《参加者 K さん》

今言われた中で、交流センターに来る道ですね、裏をずっと来る。交流センターの方向から市役所に来る細い道のところが、今言われたように側溝の蓋がないんですよ。エヴァホールからこっち。あそこの整備が早急にできたらいいなと思います。

#### 《市長》

側溝がないのもまた何か理由があるかもしれませんし、安全のためにはもちろんできれば一番いいんですけど、今全くないんですか。(Kさん：あつたりなかつたり) 調べてみたいと思います。ありがとうございました。

それでは8時をちょっと過ぎましたので、そろそろ終わりにしようかなと思っておりますが、今日は本当に幅広い観点で市民生活の改善の面でありますとか、地域の産業の発展でありますとか、それから日本遺産のことでありますとか、移住定住のことでありますとか、様々な面で貴重なご意見をいただきましてありがとうございました。市といたしましても、いっぺんにももちろん全部できるかどうかは分からないわけですが、皆様のご意見をいただきまして、これからの市の方向性を決めていく中で大変参考になると思いますので、今日の会の終わりにあたりまして、皆様に御礼を申し上げたいと思います。

それから最後にひとつだけ、私のことなんですけど、実はこの8月23日から全国中核市市長会の会長になりました。中核市が全国に48あって、人口が1,890万人くらいいるんですけど、中核市が以前は大体30万人以上だったんですが、今国の制度が変わって20万人以上のところがなれるようになって、どんどん中核市に入ってきているところです。また来年は6市くらい増えると聞いてまして、私も中核市市長会の中では結構何年間か役とかやっていて、前の会長が急に選挙とかで変わってしまったもので、それで誰を会長にするという話になった時に、伊東さんがやるんじゃないのと他の副会長から言われまして、そういうことになったんで、私としては地元のいろんな良い例とか課題の面を、全国の中核市と共有していろいろ頑張っていきたいなと思っておりますので、今後ともご支援のほどよろしく申し上げます。今日は大変ありがとうございました。

#### 《終》